子どものころからの習慣で、いなか、には
どうしても、帰る気持ちになってしまう。
―「田舎」より―

岡田の丘から海岸を望む

島尾敏雄の根っこ展

～震災復興と変わりゆく作品風景～

2018. 6.16(土)～7.30(月)

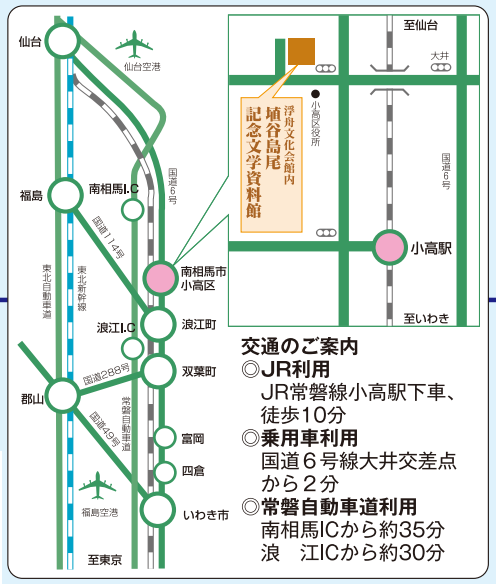
記念講演 ―〈入場無料〉―

2018年7月14日(土)14時－16時

浮舟文化会館　研修室

「いま読み直す島尾敏雄
資料とともに」

鈴木 直子氏（青山学院女子短期大学教授）



交通のご案内
◎**JR利用**
JR常磐線小高駅下車、徒歩10分
◎**乗用車利用**
国道６号線大井交差点から２分
◎**常磐自動車道利用**
南相馬ICから約35分
浪　江ICから約30分

埴谷島尾記念文学資料館

〒979-2124　福島県南相馬市小高区本町二丁目 89-1（浮舟文化会館内）
電話 0244-66-1011
URL：http://www.city.minamisoma.lg.jp/index.cfm/32,html
E-mail：bungakushiryokan@city.minamisoma.lg.jp

企画展「島尾敏雄の根っこ展」の開催に際して

平成23年３月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とその津波により起きてしまった東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故。津波の被災により多くの家屋が流失し、大半が災害危険区域に指定され、住家は建てられなくなりました。また、原発事故により避難指示区域に指定され、５年以上もの間、生活ができなかったことで、家屋の荒廃が進み、取り壊しや新築などに伴い、風景は変わりました。

島尾敏雄は、幼少期を小高で過ごし、いとこたちと遊ぶなどしており、「いなかぶり」に見られるように「いなか」である小高の海岸線、漁村集落、田んぼのあぜ道など風景を描写しました。

現在は、安全を最優先した災害復興に向けた工事が進められており、海岸線の風景も大きく変わっています。

これまでも時代の流れとともに風景は変化していますが、大災害とその復興業務により、風景はまた大きく変化しています。

「いなかぶり」を中心に島尾少年が辿ったと思しき小高の風景の震災前後の変化をご覧いただければ幸いです。

■企画展「島尾敏雄の根っこ展」関連イベント

鈴木　直子氏

青山学院女子短期大学現代教養学科教授。総合文化研究所長。松本深志高校出身。東京大学文学部卒、東京大学大学院人文社会系研究科日本語日本文学コース修了。専門は日本近代文学、ジェンダー論、現代女性文学、現代沖縄文学。博士論文は「島尾敏雄 意味の闘争」。
平成 17 年8月に旧小高町で開催した「島尾文学研 究会第12 回大会」にパネリストとして参加。平成 21 年 には、島尾ミホ氏が管理していた島尾敏雄資料の調査にも携わった。